

Speech by H.E. Ambassador Osawa
ot the occasion of
50th Commemorative Japan New Zealand Business Council
Annual Joint Conference
(18 November 2024, Kurashiki, Okayama, Japan)
(Delivered in Japanese)

第50回日本ニュージーランド経済人会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

イアン ケネディニュージーランド側委員長、市川晃日本側委員長をはじめ、日本ニュージーランド経済委員会の皆様、倉敷市の皆様をはじめ、本会議の開催に向けてご尽力された関係者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

また、駐日本国ニュージーランド大使 ハーミシュ・クーパー閣下、伊原木隆太岡山県知事、松田久岡山県商工会議所連合会会長など、ご列席の方々には、お忙しいところ本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、第50回という記念すべき本会議が、前回開催地のクライストチャーチ市と両国間ではじめて姉妹都市関係を結びました、この倉敷市で行われることを心よりお慶び申し上げます。

今年になって、日NZ間の協力は確実に緊密さを増しています。ニュージーランドのラクソン首相は、今年6月に日本を訪問し、岸田前総理と首脳会談を行いました。両首脳は、両国の戦略的協力パートナーシップ関係の重要性を再確認するとともに、特に安全保障・防衛協力に関する成果として、情報保護協定に実質合意しました。ラクソン首相は石破総理とも国際会議の場でコンタクトを取っています。

ビジネスの関係も強化されています。6月のラクソン首相訪日には30人規模のビジネス代表団が同行しました。そして、日本の小型人工衛星をニュージーランドのロケット企業が打ち上げたり、地熱や水素に関し、技術協力を行ったりすることに合意しました。今回の経済人会議で、これらの新たな分野について、両国のビジネスリーダーによる議論が

行われることは非常にタイムリーであり、日本政府としても、両国の経済パートナーシップ発展に向けた具体的な成果につながることを強く期待しております。

観光分野では、ニュージーランドから日本を訪問する観光客は大きく増加しており、今年7月までの直近1年間では10万人を超え、過去最高を記録しています。一方、日本からニュージーランドを訪問する観光客は、同時期に6万人程度と、コロナ前の6割程度に留まっていますが、留学や修学旅行などの教育関係の旅行は既にコロナ禍前を上回るなど、若い世代を中心に、両国の人の交流が回復に向かってきています。

スポーツも将来性のある分野です。ニュージーランドと言えばラグビーが有名ですが、日本でも、ワールドカップでの日本チームの活躍もありラグビー人気年々高まっております。今年10月にはオールブラックスと日本代表が横浜で親善試合を行い、結果は64対19、今回も稽古をつけてもらう形になりました。しかし、2015年、日本は南アフリカに勝ったこともあります。NZも油断することはお止めになった方がよろしいかと思います。それはともかく、ビジネスにおいては、日本企業とニュージーランド企業がともにスクラムを組み、ウィンーウィンの関係を築き、多くのトライを決めて欲しいと思っています。

私は、ニュージーランドに赴任してから8か月ですが、赴任直後から、あらゆる機会を見つけてニュージーランドの各地を訪れ、日本企業だけでなくニュージーランド企業、教育機関、地方政府等の皆様と直接お話をさせていただくことを心がけてきました。現在までの出張回数は23回、月に3回は出張していることとなります。在ニュージーランド日本国大使館といたしましても、日本とニュージーランドの経済関係の強化に向け、引き続き尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、今回残念ながら欠席しております在オークランド日本国総領事、松居眞司のメッセージを読み上げさせていただきます。

「第50回日本ニュージーランド経済人会議の開催にあたり、在オークランド日本国総領事として任地からのご挨拶になりますが、心よりお喜び申し上げます。

オークランドは、足元ではニュージーランドの ICT 企業の半数が集中しており、オークランド市がホストする起業家のエコシステム支援を中心に活気を帯びてきています。ビジネスマッチングのご相談を受け、総領事館としてお手伝いできる機会も増えております。

総領事館も設立から 50 年を超え、在留邦人の皆様の安全に役立つ支援はもとより、オークランド日本経済懇談会と手を携え、進出する日本企業の投資や NZ 企業とのパートナーシップの展開、和食を始め地元根ざすサービスの利用・広報の応援など、受け継いだ使命に改めて思いを致し、この会議の成果を皆様とともにフォローしてその歩みを次代に進めてまいります。

最後に、倉敷記念会合のご成功と本経済人会議を支える両国の皆さまの益々のご健勝をお祈りし、祝辞とさせていただきます。有り難うございました。」以上です。

私からも、最後に本会議が大きな成果を収め、両国の次世代のパートナーシップがさらに強固なものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

ご清聴、ありがとうございました。